Japan Geoscience Union Meeting 2015
(May 24th - 28th at Makuhari, Chiba, Japan)
©2015. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SSS28-P17 会場:コンベンションホール 時間:5 月 27 日 18:15-19:30

中央構造線断層帯（金剛山地東縁ー和泉山脈南縁）の活動履歴調査
Paleoseismological survey on the Median Tectonic Line active fault zone in Kinki district

堤 浩之 [1*] ; 杉戸 信彦 [2] ; 岡田 篤正 [3] ; 後藤 秀昭 [4] ; 郡谷 順英 [5] ; 谷口 薫 [5] ; 小俣 雅志 [5]
TSUTSUMI, Hiroyuki[1*] ; SUGITO, Nobuhiko[2] ; OKADA, Atsumasa[3] ; GOTO, Hideaki[4] ; KORIYA, Yorihide[5] ; TANIGUCHI, Kaoru[5] ; OMATA, Masashi[5]

[1] 京都大学, [2] 法政大学, [3] 立命館大学, [4] 広島大学, [5]（株）クレアリア
[1]Kyoto Univ., [2]Hosei Univ., [3]Ritsumeikan Univ., [4]Hiroshima Univ., [5]Crearia Co. Ltd.

平成 25 ー 27 年度に「中央構造線断層帯（金剛山地東縁ー和泉山脈南縁）における重点的な調査観測」（研究代表者：岩田知孝（京都大学防災研究所））が進められている．そのサブテーマ 1 として「活断層の活動区間を正確に把握するための詳細位置・形状等の調査及び断層活動履歴や平均変位速度の解明のための調査観測」が設けられており，航空写真や DEM を用いた変動地形学的調査による活断層分布図の作成や，トレンチ掘削調査や群列ボーリング調査による断層の活動履歴の解明を進めている．本発表では，これらのうち，活動履歴に関して平成 25 ー 26 年度に行われた（進行中のものも含む）調査内容とその予察的な結果について報告する．

本研究の調査対象は，和泉山脈南縁に位置する根来断層・根来南断層・五条谷断層と金剛山地東縁に位置する金剛断層帯である．過去 2 年間に，根来断層の 3 地点，五条谷断層の 1 地点，金剛断層帯の 1 地点でトレンチ掘削調査を行い，また根来南断層の 1 地点で群列ボーリング調査を行った．本研究の目的は，各断層の最新活動を含む過去複数回の活動履歴を明らかにし，最新活動時期や平均活動間隔など地震の長期予測に資するデータを取得することである．

和歌山市上野で掘削した根来断層のトレンチ壁面には，未固結の堆積物を切るほぼ垂直の数条の断層が露出し，イベント層準の解釈や年代測定を進めている．岩出市根来で行った根来南断層の群列ボーリング調査では，10m 離れたボーリング孔の間で基盤岩の出現深度が 5m 以上異なる（北側が浅い）ことが明らかとなった．北側の和泉層群が 2 万数千年前の年代値が得られた低位段丘堆積物に衝上している可能性があるため，追加の斜めボーリングを掘削中である．橋本市高野口町竹尾で行った五条谷断層のトレンチ調査では，上方に開くフラワーストラクチャーを示す数条の高角断層が露出した．これらの断層は，基盤の和泉層群と AT 降下以降の堆積物を変位させている．このトレンチでは，最新活動時期が 2300 ± 30yBP 以降で 1420 ± 30yBP 以前と求められ，従来 3300yBP 以降で 950yBP 以前とされていた最新活動年代（地域地盤環境研究所，2008）をさらに絞り込むことができた．葛城市中戸で行っている金剛断層帯のトレンチ調査では，約 3000yBP 以降の堆積物が露出した．明瞭な断層は観察されないが，堆積物が東へ急傾斜しており（最大で約 10°），周囲の扇状地の初生的な傾斜と比べて有意に大きい．これが金剛断層帯の活動に伴う上盤側の変形である可能性があると考え，トレンチの掘り増しによる検討を進めている．

キーワード: 中央構造線断層帯, 近畿, 古地震, トレンチ掘削調査, 群列ボーリング調査
Keywords: Median Tectonic Line active fault zone, Kinki district, Paleoseismology, Trenching, Arrayed borehole survey